創刊のことば

清水文雄

現代のような激動期には、万人に共通な一般的な問題ももちろん多いのですが、また教育現場にある者同志のあいだだけで考えてみなければならぬ問題も山積しております。身ぢかな国語教育という領域にせばめて考えてみても、すでにいくたびか研究会・学会・雑誌などの公共の場に持ち出されながらまだ解決されていない問題から、各教師の胸のなかでくすぶっていてそういう場にまだ提出されていない問題まで、無限にあるといってよいでしょう。すでに公共の場に持ち出されたものでも、それが今日的な生きた問題であれば、何度でも取りあげられてよいし、自分の胸のなかでくすぶっている問題は、思い切って公共の場に持ち出してみるのがよいと考えます。自分が真剣に苦しんでいる問題であれば、かならず一緒になって考えてくれる人がいるという自信を持つようにしたいものです。

このたび、広島大学教育学部光葉会から雑誌『国語教育研究』を創刊することになったのも、教育現場にあって日々若い生命を燃やしつづけている卒業生諸君の強い要望に応えられたもので、むしろ出るべくして今日までその機を得なかった観があります。新制大学になってからでも、すでに三百名に近い国語教育専攻の卒業生が送り出され、それらの諸君は全国各地にあってそれぞれ研究に実践に活躍をつづけております。なかにはすでにいくたびかその業績を公表する機会を恵まれた人たちもありますが、まだ適当な発表の機会をもたず、せっかく掘りおこした問題のいくつかを心のなかであたためているばかりで、公の場に提出してみんなの問題として高めひらくところまでいたっていない人たちの方が多いのではないかと思います。本誌は、そういう人たちをもこめた卒業生全体および同志同行の人たちに、自由討究の場を提供するために創刊されたわけです。ささやかなこの雑誌を媒介として、国語教育における創造的・建設的な雰囲気をもった人間関係が育成されてゆくことを、心から念願するものです。

なお、本誌創刊の事務万端は、在学生のなかから選ばれた編集委員諸君によって運ばれたものです。若年未熟のせいで不備の点も多かろうかと思いますが、おゆるしいただきたいと思います。ただこれを契機として卒業生・在学生が一体となり、いくらかでも国語教育界に新風をおくることになるならば、ひとりわたくしども関係者の喜びにはとどまらないでしょう。